

『ケガに思う』

最近、ケガをしました。切り傷です。右手親指内側（第1関節の上あたり）の皮膚を5mm四方程、紙ファイルの端でザックリと切ってしまいました。「やっちゃったな」と思い親指を見ますと、出血の度合いはけっこうなものでした。とりあえず、ティッシュペーパーで傷の部分を押さえつけましたが、出血はなかなか止まりません。同時に痛みも出てきました。ティッシュペーパーを3回程替えたところ、血の出方が少し弱まってきたので、かばんに入っていた傷絆創膏（何かの粗品で、性能は??）をまきました。

傷は、厚さ1mm程の皮膚が1辺5mmの正形状に剥けていました。皮膚下の肉が見えており体液が滲み出ていました。剥けた皮膚は上方の1辺のみでつながっていました。なんちゃって絆創膏での応急処置だったので、できるだけ早くちゃんとした絆創膏での処置をせねばと思い、最寄りのドラッグストアに入りました。

4種類ほどの絆創膏がありました。まずは、目線の高さに置いてあるものからパッケージの説明箇所を読み込みました。私としては、防水性の高いものが選定基準でした。手洗いや洗顔やシャンプー等で親指が水に触れる際に、しみ込んだ水等で傷口に悪影響（痛みを一番に避けたいところでした）が及ばないようにしたかったからです。

説明を読んで、「ほー。今の絆創膏は進化しているな!」と感心してしまいました。「高い防水性を持ちながら、傷口部分を被う部分は、しみ出てくる体液を吸収しつつ適度な湿潤状態を保ったうえで、傷の修復を促進させ、かさぶたをつくらずに速やかに薄皮ができます」というものなのです。私が子どもの頃（否、十数年前までは）は、擦り傷などは、「傷口をきれいにした後消毒液をたっぷりかけ、その後ガーゼ等をあてて、傷口を早く乾かし、かさぶたができた間もなく治る」という感覚だったものですから。

同様の機能を有した絆創膏が、二つ下の段に置いてありました。説明内容はほぼ同じ。結果、私が選んだのは、二番目に手にしたものでした。理由は、日本製であるということ。加えて、価格も少し安かったからです（今回の傷の状態から見て、治るまでにひと箱では足りない判断しました。それなりの数量が必要なので、同等の機能であるなら安い方がいいなど）。

帰宅後、早速、説明書を熟読。「傷口は、水道水等できれいにし、よく乾かしてから本品を貼るように。消毒液は使用しないこと」とのこと。「水道水でいいの?」と思いましたが、そう言えば、「最近、擦り傷などは、水道水で良く洗い、その後ラップをまいておくだけでいい」と聞いたことを思い出しました。

私は、説明書の通りにやりました。その際、かろうじて残っている皮膚はどうしようかと迷いましたが、結局傷口に押し当てて、その上に絆創膏をまきました。この皮膚は、3日後には、入浴中にポロリと取れてしまいました。おそらくケガをした時点で、この残った皮膚には、再生能力は残っていなかったのだと思います（科学的な根拠等はありません。私の想像です）。

この絆創膏、傷口を被う部分も含めて透明でしたので、「いい機会？だから、傷口に薄皮ができる過程を観察してみよう」と思いました。

ケガをしてから4日目、傷口の周辺がぐるりと白っぽくなっていました（幅は2mm弱程）。明らかに薄皮が形成されてきていると感じました。私は特に薄皮ができる過程の予想を立てていたわけではなかったのですが、「ほー。周辺から来たか」と、ちょっと驚きでした。ですが、よくよく考えますと「そうか。傷口に近い皮膚細胞が増殖し、薄皮をつくっているのだな」と推測しました（これも私の想像です）。

5日目には、傷口の8割強まで薄皮が広がりました。傷口の中央（ほぼ正方形の対角線上）に薄い凸レンズの側面のような形をした肉色部分が残っていました。そして、6日目には、傷口全面に薄皮ができました。この状態になるまで、私は、当初、8日～10日はかかるだろうと予想していましたので、予想外の回復に嬉しく思いました。

その後は、同じメーカーの通常の絆創膏（防水性・通気性有り）に切り替えました。薄皮の保護が目的です。この時点では、まだ、タオル等を絞る動作の際、まだ痛み（違和感かも）を感じていたものですから。そして、11日目には、薄皮の色も周辺の皮膚の色にだいぶ近づきました。タオル等を絞る動作も、力いっぱいは無理ですが、それなりにできるようになり、日常生活にもほとんど支障をきたすことはなくなりました。

私には、「このままやったらケガするかも・・・」という予感を覚える時があるのですが、一方で「まだ大丈夫だろう。何とかなるだろう」と、楽観的に構え、結果そのまま行動を継続してしまい、痛い目に遭うことがしばしばあります。中でも、教頭1年目（単身赴任）の時、夕食時、無性に玉ねぎスライスのサラダが食べたくなり、スライサーを使っていたところ、だいぶ玉ねぎが小さくなり「そろそろ、スライサーでは無理かな？」「でも、もう少し大丈夫かな」などと思いながら作業を続けていましたら、右手親指先に痛みが走りました。スライサーの刃で切ってしまったのです。またたく間に、ひどい出血が始まりました。血がポタポタとシンクに落ちていきました。こんな出血は初めてでした。一瞬、気が動転しましたが、まずは止血しなければと、ティッシュペーパーで何重にも押さえましたが、すぐに血が滲んできました。住宅には絆創膏等は備えていませんでした。勤務校までは、1分もかかりません。「保健室に行くしかない」と思いました。

押さえていたティッシュペーパーをはがすと出血の勢いは弱まっていませんでした。とりあえず、傷口周辺にくっついていてティッシュペーパーを水道水で洗い流した後、消毒液を空になるまでかけました。その後、傷絆創膏を何枚も使って、傷口と親指の付け根あたりをぐるぐる巻きにしました。「今、自分ができる処置はここまでだ」と住宅に戻りました。

翌日早々に、養護の先生に傷の状態を診てもらいました。幸い、出血は止まっていました。「かなり深くやりましたね。でも、傷口はきれいですよ」「病院に行った方がいいですか？」「いや、行かなくても大丈夫でしょう」その後、ガーゼや包帯で処置してもらいました。詳しい経過は忘れましたが、運よく、傷は化膿もせずきれいに治りました。

頻繁ではないのですが、このようなケガを繰り返しています。車の運転は別としまして、油断、不注意、見通しが甘い、時に危険を軽んじる。魔が差す（これはいい訳か・・・）。今回のケガで、もうそろそろ学習しなければと痛感しています。